

1 提案の背景

資料館は創立40周年を迎えた。
2019年には来訪者が約100万人訪れ、
福井県の観光客入込数では5位になった。

来訪者を増やすために、
新たな宣伝材料が必要である。
流域のまちづくりの活性化に寄与する
方策を提示する必要がある。



2 提案の目的

2020年度、一乗谷川流域において、河川氾濫に関する
新たな遺跡が発見された

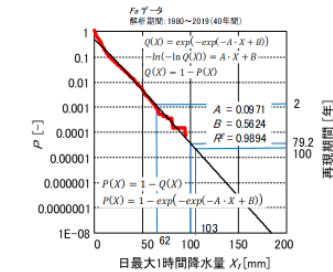
流体数値シミュレーションを用いて、
現一乗谷川と旧一乗谷川の氾濫解析が可能となった

現一乗谷川流域における**災害の種類**
+
旧一乗谷川の**氾濫の状況**
を明らかにする



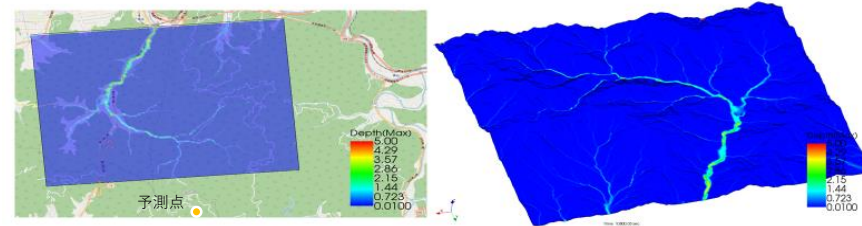
3 福井県の確率降水量について

私達は、複数の気象台の降水量を1つの発生頻度とする新
しい手法¹⁾を日本建築学会で提案した
この手法を用いて、福井県の確率降水量を予測する

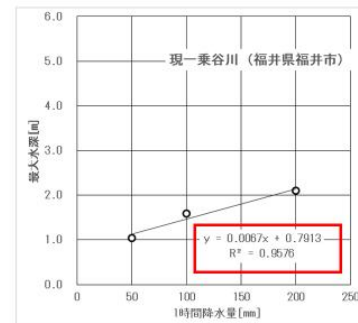


1) 補足資料参考

4 現一乗谷川の氾濫解析について



5 現一乗谷川の氾濫解析について



現一乗谷川の水深：3.375m



現一乗谷川が氾濫する1時間降水量：437mm

6 現一乗谷川の氾濫解析について

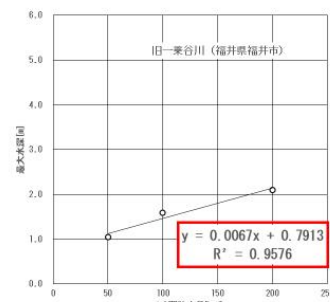
現一乗谷川が氾濫を起こすのは1時間降水量が437mmのときである

1時間降水量が437mmの発生頻度は約2000億年に一回である

外水氾濫の**危険性はない**



7 旧一乗谷川の氾濫解析について



旧一乗谷川の水深：1.125m



現一乗谷川が氾濫する1時間降水量：67.7mm

8 まとめと展望 (その1)

現一乗谷川において大雨による氾濫が発生することはない

土砂災害などはあるかも…

大雨を起因とする災害を心がける

資料館と休憩所の液晶ディスプレイと
インターネットで
一乗谷川の様子をリアルタイムで放映する

周辺住民が安心



9 まとめと展望 (その2)

日常的に一乗谷川付近の住民が遺跡周辺の整備をしている

周辺住民の方々による草刈り作業と同時に、
堤防および林床などを注意深く見守る

異常があれば、休憩所や資料館に連絡する体制である
状況に応じて、専門家が現地調査を行う

この体制をとることによって事前に災害を防ぐことが可能